

国語科学習指導案

1 単元（題材）名

いにしへの心にふれる 「いろは歌」・「古典の世界」

光村図書「国語1」 p.154～157 教育出版「中学書写」 p.26

2 単元（題材）の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して古典の世界に親しむことができる。 【知識及び技能】(3)ア
- (2) 古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。 【知識及び技能】(3)イ
- (3) 楷書に調和する仮名の書き方を習得して書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (4) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くことができる。 【知識及び技能】(3)エ(ア)
- (5) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して古典の世界に親しもうとしている。 【(3)ア】	①楷書に調和する仮名の書き方を意識して書いている。	①言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。
②古典にはさまざまな種類の作品があることを意識している。 【(3)イ】		
③字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書いている。【(3)エ(ア)】		

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、「いろは歌」を学習し、その字源を意識しながら筆ペンで書くという言語活動を行う。本単元は、中学校の古典学習の第一段階としておかれている。「いろは歌」は日本語の字母表であり、一字も重複することなく四十七文字を使って作られ、七五調四句の今様形式から成るリズムカルな音律をもつ。成立以降、手習いの際に用いられる手習い言葉の一つとして広く用いられた。現在は、言葉の学習の出発点には「五十音図」が用いられているが、今様という歌謡の一つとして音律や字源

に触れることで、古典学習のスタートとしてふさわしいと考える。

「古典の学習」では、古典作品をイラストや年表とともに、中学校3年間で学習する古典作品を一覧として見ることができ、古典に親しむきっかけとなる。

さらには、普段使用しているひらがなの字源を学習し、筆ペンを用いて「いろは歌」を練習することで、正しい字形や書き順を学習するきっかけになると考える。その際タブレット端末を使用し、仮名作品を鑑賞し、多くの作品に触れることで、古典を深く知る礎にさせたい。しかし、活字離れ、手書き文字の機会が減っていることから、手書き文字の温かみや正しい字への理解が乏しくなっている。今回の授業をきっかけに、デジタルだけでなく、手書き文字の文化の大切さも意識させていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、「いろは歌」を学習し、その字源を意識しながら筆ペンで書くという言語活動を通して、[知識及び技能]の(3)エ(ア)の「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くことができる。」力を身に付けさせたい。生徒たちは、普段から漢字・ひらがな・カタカナを用いてノートやレポートの記入などを行っている。しかし、書いている様子を見ると、筆順や字形、大きさを意識せず書いており、本単元で正しい字源を知ることで、字形の成り立ちや筆順を意識して書く力を付けさせたい。

また、単元全体を通して、古典の基礎を学習し、その楽しさを味わうことで、我が国の伝統的な古典に親しみを持てるようにさせたい。

(3) (1)、(2)の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

本学年の生徒は、漢字を書く能力や継続的な家庭学習の取り組みに課題があるため、国語の授業では毎週水曜日に漢字の小テストを行い、その際に練習プリントを課題にすることで、家庭学習を習慣づけられるようにしている。漢字の練習は行っているが、小学校1年生で学習しているひらがなについては練習したり、直したりする機会も少なく、漢字に比べて字形が崩れている生徒が多いため、本単元を設定した。

5 単元の流れ

時	学習活動	指導と支援(◇評価)
1	○「いろは歌」について知る。音読をする。 ○「古典の世界」、便覧を活用して、古典について知る。	・「いろは歌」の成立や今様形式について学習し、およその意味内容を知ってから、音読をする。 ◇【知識・技能】(3)ア ・「古典の世界」を見ながら、古典学習の内容を把握する。 ◇【知識・技能】(3)イ
2	○ひらがなの字源について学ぶ。 ・仮名作品の鑑賞(GIGAタブ使用)	・「いろは歌」に照らしながら、ひらがなの字源を考える。 ◇【主体的に学習に取り組む態度】 ・タブレット端末を使用し、古典の作品を鑑賞する。 ◇【主体的に学習に取り組む態度】

3 (本時)	○字源を意識しながら、「いろは歌」を水書用筆で練習する。 ※「い」～「む」、「う」～「ん」の前半後半に範囲を分け、どちらかを練習する。	・水書用筆を使い、ひらがなの字形や配列を意識して楷書で練習する。 ◇【知識・技能】(3)エ(ア) ◇【主体的に学習に取り組む態度】 ・楷書に調和する仮名の書き方を習得して書く。 ◇【思考・判断・表現】
4	○前時に練習した範囲を筆ペンで清書する。	・前時の学習を生かして清書を行う。 ◇【知識・技能】(3)エ(ア)
5	○硬筆で「いろは歌」を練習し、清書する。	・硬筆で練習し、日常へ生かす。 ◇【知識・技能】(3)エ(ア) ◇【主体的に学習に取り組む態度】

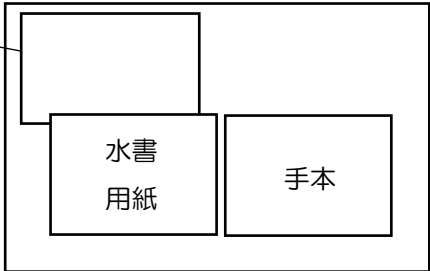
6 本時の指導

(1) 本時の目標

字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書くことができる【知識及び技能】
楷書に調和する仮名の書き方を習得して書くことができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開 (3/5)

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 (5分)	※あらかじめ、机上に水書筆と水書用紙を準備しておく。 ・前時の復習	・「いろは歌」を暗唱させ、ひらがなの語源になっていることを確認する。	
	学習目標 字源を意識し、字形や大きさに注意しながら「いろは歌」を練習しよう。		
	・学習のねらいを理解する。	・ひらがなの字源をいくつか確認し、ひらがなのもと漢字であることを再度意識させる。	

<p>展開 (35分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用筆の使い方を学ぶ。 ・練習①（5分） <ul style="list-style-type: none"> 1 「い」～「む」 2 「う」～「ん」 どちらかを練習する。 ・練習内容を確認し、どの部分が良いか発表する。 ・ワークシート①の記入（自己分析） ・練習②（10分） 練習①で練習した範囲を再び練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水書用筆と筆ペンの相違点を知り、学習に役立てさせる。 ・筆の持ち方や姿勢を確認しながら教室をまわる。 ・比較のためにタブレットで自身の練習したものを撮影するよう促す。 ・字形がよく取れている生徒の練習用紙をいくつか撮影し、画面に映す。 ・どんな部分が良いか、手本と見比べながら発表させる。 ・ワークシートの「いろは歌」に、よく書けている部分を青、意識が必要な部分を赤でなぞらせ、意識させる。 ・赤くマークをした部分を意識して練習を始めるように促す。 ・筆の持ち方や姿勢を確認しながら教室をまわる。 ・机上部にワークシートを置き、すぐに確認できる配置にさせる。 <div style="text-align: center;">  <p>ワークシート ←</p> </div> <p>※タブレットは机の中にしまう。</p>	<p>練習</p> <p>【知識・技能】 (3) エ (ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>発表</p> <p>【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>練習</p> <p>【知識・技能】 (3) エ (ア)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
-------------------------------	---	---	---

<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り (ワークシートに記入) ・次時の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・机上をワークシートが書ける状態にさせる。 ・ワークシートの振り返り欄を練習①と練習②の取り組み後の変化に着目させながら記入するよう促す。 ・水書用紙、水書用筆を返却させる。 ・今回の練習を生かして、次回は筆ペンを使用して清書することを伝える。 ・字形を日常に生かせることを確認する。 	<p>ワークシート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>
----------------------	--	--	---

(4) 板書計画

- ・まとめ
- ・練習②
- ・新しい課題の設定
- ・みんなと比較
- ・ワークシート記入
- ※タブレットで撮影しよう。
- ・練習①
- ・確認

◎学習の流れ

字源

※いくつか提示

字源を意識し、字形や大きさに注意しながら「いろは歌」を練習しよう。